

予兆検知装置の導入で、
大型車車輪脱落事故ゼロへ。

安全な運行を支える、
プラスアルファの
「安心」を。

車輪脱落 予兆検知装置 導入企業 インタビュー

車輪脱落事故防止に向け、国による支援も始まり、「車輪脱落予兆検知装置」の導入が広がっています。現場の声を通じて、導入効果や活用状況をご紹介します。

やっぱり

安心感じゃないですか。

私たちが一番大切にしているのは、当たり前前、点呼前には必ず日常点検を行います。毎朝、点呼前には必ず日常点検を行い、タイヤ交換の際には錆を落として、潤滑油をきちんと塗る。何かおかしいと感じたら、運行中でもすぐに整備担当へ連絡するよう、ドライバーには日頃から伝えていきます。

車輪脱落予兆検知装置を知ったきっかけは、取引先からの紹介でした。以前、車輪の脱落による痛ましい事故のニュースを目にしたこともあり、車輪脱落は、人命に関わる重大な事故につながる



株式会社明和運輸 九戸営業所
所長 武尾 雅樹 様

という強い危機意識を持つていました。

そうした中でこれからこうした安全装置がスタンダードになっていくのではないかと話もあり、整備担当や社長とも相談して、営業所の20台に導入することを決めました。

もちろん、装置を導入したからといって、これまでの日常点検を変えたわけではあり

ません。「装置があるから点検をしなくてもいい」ということではなく、あくまで日々の点検に加える「プラスアルファ」の安全対策だと考えています。毎朝、自分の目でしっかりと確認し、さらに走行中は装置にも車輪の状態を見守ってもらう。ドライバーにとって安心材料が一つ増えることで、より安全な運行につながればと思っています。



予兆検知装置受信機

安全を支える技術は、これからも進化していくと思います。新しい技術や装置について情報を得たときには、整備担当やドライバー、メーカーの皆さんと相談しながら、自分たちの現場に必要なものを見極め、積極的に取り入れていきたいですね。

安心要素が1つ増えたことによって、 運転に集中できるようになりました。

日々、自分の目でしっかり点検していますが、走っている間は車輪を見ることができません。実際に走行中、装置のアラームでナットの緩みに気づき、すぐに停車して整備することができました。機械だけに頼るつもりはありませんが、常に見守ってもらえているという安心感は心強いですね。



株式会社明和運輸 九戸営業所
ドライバー 下條道 悠 様